

鮎走村由緒書

粟田口大納言平朝臣光盛卿

御家臣芥見左小弁様

御直庄 安元二年 庄司判

(一一七五年)

美濃國郡上郡鮎走村

由緒書

宝曆二年八月十日

庄屋 惣左衛門判

組頭 甚五右衛門判



四人明の初

岩穴とは岩に  
非ずして人の  
通なきをいう  
哉。

連人は性稿氏  
たつしんの子  
孫、俗性を何と  
いうか。  
後の森氏なら  
ん。



由緒

夫美濃國郡上於鮎を村とり、八具田具也  
尋ぬる小人皇二十代顯宗天皇、しりあ  
分二十宮人流衆とて連人としりあ者  
房原を岩穴に依りて磐石始めて位其具  
而源追々紹弟強して田を園を知世繁し  
ありしものとも、却遠き山中絶を程真の微  
たのり、小人皇二十代孝徳天皇、しりあ  
大迎の大雨、而近邊漏ありたり、あつあつ時  
塵中、鮎魚集りて遊びあり、あつあつ時  
終、天皇、軟下仰りて、其、あつあつ時  
あつあつ時、あつあつ時、あつあつ時、あつあつ時  
あつあつ時、あつあつ時、あつあつ時、あつあつ時

鮎走其後  
大洞・神道也。

集人正代人助右  
衛門といふ。  
八人集といふ。

泰澄法師八白山開  
基  
助七案内道刈先達  
ト云。なたかまに  
そだ持  
養老老年  
六月一日

丹波少将平広定  
ト云者也。  
氏不知

*鮎走其後*  
*大洞神道*  
集人正代人助右  
衛門といふ。  
八人集といふ。  
いふ

か備定真其子者所志の人歎を為以  
去て申す時連人の懐風波平能集地志  
既、鮎走の人歎を聞きし、此の時助  
近造、主人正助を以て言所助す、其の時  
助は、此の時助、其の言、主人正助を以  
才正定志の才子となす、其の言、主人正助を以  
當時真抄、其人、布得、定程、其の名代人  
故見、助、真納す、其の言、主人正助を以  
其の言、主人正助を以、其の言、主人正助を以、  
門と稱して、其の言、主人正助を以、其の言、主人正助を以、  
助、其の言、主人正助を以、其の言、主人正助を以、

*泰澄法師*  
*八白山開*  
*基*  
*助七案内道刈先達*  
*ト云。なたかまに*  
*そだ持*  
*養老老年*  
*六月一日*

*丹波少将*  
*平広定*  
*ト云者也。*  
*氏不知*

あり、其地、一洞、名付て、其勝の森、その子、  
人正助、其の信、信、あり、其人、懐風、波平、能集、地、志、  
既、鮎走、其人、歎、を、聞き、し、此、の、時、助、  
近造、主人、正助、を、以て、言、所、助、す、其、の時、  
助、は、此、の、時、助、其、の、言、主人、正助、を、以、  
才、正、定、志、の、才、子、とな、す、其、の、言、主人、正助、を、以、  
當時、真、抄、其、人、布、得、定、程、其、の、名、代人、  
故、見、助、真、納、す、其、の、言、主人、正助、を、以、  
其、の、言、主人、正助、を、以、其、の、言、主人、正助、を、以、  
門、と、稱、して、其、の、言、主人、正助、を、以、其、の、言、主人、正助、を、以、  
助、其、の、言、主人、正助、を、以、其、の、言、主人、正助、を、以、

干地家は後の  
下地下古家也。

甚五右衛門ハ  
惣十郎也。

△郷土鷲見氏  
仮支配

○永井ハ後二  
国司土岐ヲ滅  
亡成されて自  
立齋藤ト名く。

干地家後  
下地下古家也

惣十郎也

△郷土鷲見氏  
仮支配

○永井後二  
土岐ヲ滅亡  
自立齋藤ト名く

此等干地家と其所を以て其地を以て其地を以て

仍干地家と其所を以て其地を以て其地を以て

其の判友代臣惣見仲務等永井隆之助

市役人として其地を以て其地を以て其地を以て

組民改之善上申具帳面記一々其人數

九名名社寺

宗首真重宗極福院(檀越)五人(位)一十郎才(位)一

天台宗大願院(檀越)五人(位)一十郎才(位)一

社數之不(檀越)五人(位)一十郎才(位)一

天台宗淨蓮寺(檀越)五人(位)一十郎才(位)一

五ノ郎才(位)一十郎才(位)一

又其地を以て其地を以て其地を以て

其地を以て其地を以て其地を以て

其地を以て其地を以て其地を以て

其地を以て其地を以て其地を以て

其地を以て其地を以て其地を以て

其地を以て其地を以て其地を以て

其地を以て其地を以て其地を以て

其地を以て其地を以て其地を以て

別記に曰ク  
 小栗判官兼氏ハ  
 美濃、近江、両国  
 並ニ常陸ニ住ス  
 也といふ。  
 大概美濃国の判  
 官ならん。  
 後、齋藤・永井等  
 代りしならん。

別記に曰ク  
 小栗判官兼氏ハ  
 美濃、近江、両国  
 並ニ常陸ニ住ス  
 也といふ。  
 大概美濃国の判  
 官ならん。  
 後、齋藤・永井等  
 代りしならん。

三斗幸トモヨシ 若大ニガハ 湯丸ユヅル 以下以下 四斗ヨシト 若大若大 湯丸湯丸

米三斗五升 坊助 一回三斗五升 助九郎

米三斗五升 孫五郎 一回三斗五升 孫五郎

米三斗五升 志五郎 一回三斗五升 志五郎

米三斗五升 志五郎 一回三斗五升 志五郎

米三斗五升 助五郎 一回三斗五升 助五郎

米三斗五升 助五郎 一回三斗五升 助五郎

米三斗五升 孫五郎 一回三斗五升 孫五郎

米三斗五升 孫五郎 一回三斗五升 孫五郎

米三斗五升 志五郎 一回三斗五升 志五郎

米三斗五升 志五郎 一回三斗五升 志五郎

米三斗五升 志五郎 一回三斗五升 志五郎

米三斗五升 志五郎 一回三斗五升 志五郎

米三斗五升 志五郎 一回三斗五升 志五郎

米三斗五升 志五郎 一回三斗五升 志五郎

米三斗五升 志五郎 一回三斗五升 志五郎

米三斗五升 志五郎 一回三斗五升 志五郎

米三斗五升 志五郎 一回三斗五升 志五郎

米三斗五升 志五郎 一回三斗五升 志五郎

米三斗五升 志五郎 一回三斗五升 志五郎

米三斗五升 志五郎 一回三斗五升 志五郎

米三斗五升 志五郎 一回三斗五升 志五郎

米三斗五升 志五郎 一回三斗五升 志五郎

米三斗五升 志五郎 一回三斗五升 志五郎

米三斗五升 志五郎 一回三斗五升 志五郎

米三斗五升 志五郎 一回三斗五升 志五郎

何名に仰せらる  
 人足し人常致法此仰付仕之也

是利法承様之判友代

存仁元々八月七日 内藏木三助平

司官領代人

山名内膳 平

右三斗五升 志五郎 一回三斗五升 志五郎

右三斗五升 志五郎 一回三斗五升 志五郎

右三斗五升 志五郎 一回三斗五升 志五郎

右三斗五升 志五郎 一回三斗五升 志五郎

右三斗五升 志五郎 一回三斗五升 志五郎

右三斗五升 志五郎 一回三斗五升 志五郎

右三斗五升 志五郎 一回三斗五升 志五郎

右三斗五升 志五郎 一回三斗五升 志五郎

右三斗五升 志五郎 一回三斗五升 志五郎

山城守

帳係り跡差上知る

二石 助十郎外

而性 七十五人

水帳し写并人教 四十一軒 寺伝二軒

田丸所立敵歩 湯見高し地面

細三町ニ反歩

一 寺三十八軒 公子勸切

一 并小尾社 森人数居位 此は假地家

一 人数言九拾五人 此香社掃除人之家

一 林三十所 村内用杖湯上當木三隔

一 寺院三ヶ寺 寺傳二軒 寺傳二軒

一 社四社 此寺傳中即行寺傳見氏滅之寺谷村

衣中 上以上

正親町院湯子 永録中平位長公判有代 伊為氏

滅亡七美濃公 銘石給小府 木下為吉中 領

とて 親見氏を返け 東氏し 後亂 遠家 領と

なると 時人 又 馬代 料人数 人 村 年 立 伊 領 行

院 坊 火 滅し 後 只 一 坊 奈 也 寺 領 湯 子 上 寺 以 借

取 正 元 上 地 別 寺 山 坊 水 湯 抄 昌 姪 孫 高 姓 名

山下玄番 利國三氏跡 寺子 一向 宗 梅 依 寺 淨 善 房 寺 子

寺 子 家 藏 田 中 代 り 方 下 也 湯 子 寺 傳 地

寺 入 れ 是 太 印 檢 寺 又 其 夏 永 中 寺 傳 依 湯 子 檢

地 寺 入 れ 湯 子 寺 傳 湯 子 寺 傳 湯 子 寺 傳

藏 田 中 代 り 方 下 也 湯 子 寺 傳 地 寺 入 れ 湯 子 寺 傳

山城守

是□ならん村中  
にて五人の事  
是□ならん村中  
にて五人の事

園子原義人等 大坂合戦に付 五人は

是等五人の中  
に五人あり

大坂あらし 寺田 人等

是等五人の中  
に五人あり

百姓 寺田 人等

寺田 人等

同代 寺田 人等

寛永 寺田 人等

人等 寺田 人等

既 寺田 人等

百姓 寺田 人等

又 寺田 人等

又 寺田 人等

又 寺田 人等

又 寺田 人等

又 寺田 人等

又 寺田 人等

又 寺田 人等

又 寺田 人等

又 寺田 人等

又 寺田 人等

又 寺田 人等

又 寺田 人等

又 寺田 人等

又 寺田 人等

又 寺田 人等

又 寺田 人等

又 寺田 人等

又 寺田 人等

又 寺田 人等

